



護岸は復旧されて、まちがなくなってしまった武田尾



二年連続被害を受けて復旧を終えた百軒樋護岸



左側の枝が伐採されたが、誰も気付かないクスノキ



長期間堰転倒して復旧工を終えた阪神橋梁護岸



阪神橋梁護岸の復旧区間との取り合い部分に残る傷跡



豊水期を迎え河川工事は止まるが新名神工事は続く。

6月1日～10月31日までの5ヶ月間は、梅雨の大雨や、台風による大雨で河川が増水しやすい時期であるため、出水期とよんで、原則として河川工事を行わない期間として定められている。昨年の18号台風で受けた本川被害箇所は全て復旧された。2回連続で浸水被害を受けた武田尾地区の護岸は復旧したが、被災住宅は更地になった。僧川はまだ復旧工事半ばで、切畑道(33号線)の復旧も進み新名神工事車両が頻繁に走るようになった。武庫川の工事は一旦止まっても、山を切り開いて作られる新名神工事は佳境に入り、山肌剥き出しの箇所が多く、宝塚市の水源の一つ切畑溪流取水口は仮設貯留池のように見える。早く元に戻して欲しい。

